

未来を築く次世代の選択

LUXE MUKI

屋根用

水性1液超高耐候性無機有機ハイブリッド屋根用塗料

ラグゼMUKIルーフ

弱溶剤形2液超高耐候性無機有機ハイブリッド屋根用塗料

ラグゼMUKIルーフマイルド

ハイブリッド無機 その選択が 未来を創る。

無機と有機の融合から生まれた次世代塗料、

「ラグゼMUKIシリーズ」。

ハイグレードの耐候性が

建物を長寿命化へといざないます。

塗り替えサイクルを最適にする選択が、

未来の安心を形にします。

無機の力を活かす 無機有機ハイブリッド技術

当社独自の「無機有機ハイブリッド技術」により、『強さ』と『柔軟性』を融合した塗膜が
超高耐候性を発揮。過酷な環境から建物を長期に保護します。



強さの無機

無機成分は、太陽光(紫外線)や酸性雨などにも
強く耐久性が高いのが特徴。
硬く強い反面、脆さという性質がある。



柔軟性の有機

有機成分は、建物の動きや変形にも対応し、
ひび割れや剥がれを防ぐための
高い柔軟性が特徴。

紫外線劣化に耐えるラジカル制御技術

過酷な環境に曝される建物。特に紫外線は、塗膜や素材を劣化させるため、
紫外線に強い塗料選びが大切です。

4つのラジカル制御技術で、塗膜劣化の原因物質「ラジカル」の発生を根本的に抑えます。



Control 1 高性能ハイブリッド無機

超強力な結合エネルギーを持つ「高性能ハイブリッド無機」で紫外線劣化を抑制



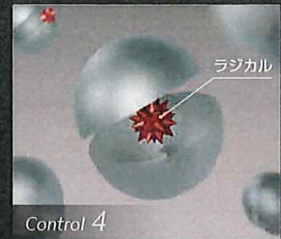
Control 2 UVトラップ

「UVトラップ」で紫外線を吸収し劣化を低減



Control 3 ラジカルバリアコート

酸化チタンへの紫外線到達によるラジカル発生を抑制



Control 4 HALSラジカルキャッチャー

極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し無害化

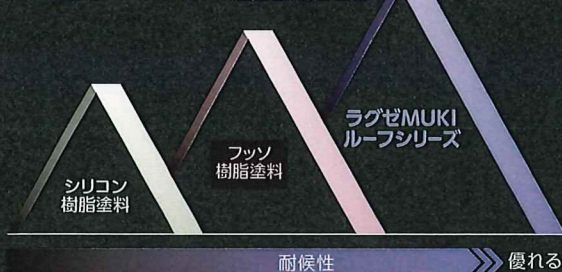
Fusing Technology

「無機有機ハイブリッド技術」と「ラジカル制御技術」の融合

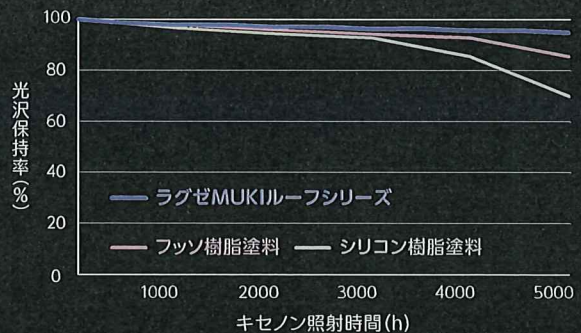
「ラグゼMUKIシリーズ」は、紫外線に強い超高耐候性のハイブリッド無機と、
ラジカル制御技術を融合したハイグレードの塗料です。

塗料のグレード

従来の最高グレード「フッ素樹脂塗料」を超越



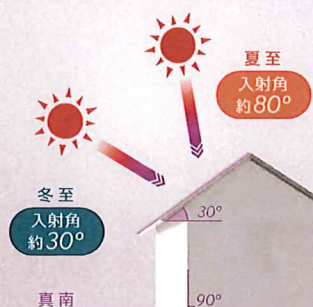
促進耐候性試験結果



過酷な環境下にある屋根に最適な選択を

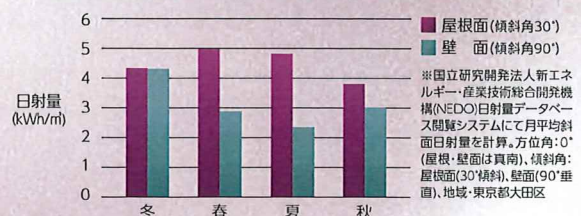
屋根は建物の中で最も過酷な環境に曝され、特に紫外線は塗膜や素材を
劣化させる要因となるため、紫外線に強い塗料選びが大切です。

屋根や外壁は、太陽の位置(入射角)と屋根や外壁面の傾き(傾斜角)の違いによって、太陽から降り注ぐエネルギー量(日射量)の受け取る量が異なります。地表に降り注ぐ太陽光の日射は、主に赤外線、可視光線、紫外線を含みます。



日射量のグラフ(月平均斜面日射量:東京)

屋根は外壁と比べ、年間を通して多くの日射量を受け、
塗膜劣化に影響する紫外線も多く受けることになります。



超低汚染

親水性の塗膜を形成することで、付着した汚れを雨水が流し落とします。雨だれ等を低減し建物の美観を維持します。

屋外バクロ試験結果(6ヶ月 当社比)



ラグゼMUKIルーフシリーズ

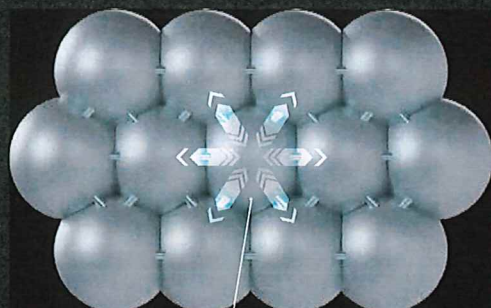


従来シリコン樹脂塗料



優れた耐久性

緻密な塗膜が優れた耐久性を発揮します。



樹脂同士が強力に密着

良好な仕上り

抜群の塗りやすさに加え、肉持ちのあるしっとりとした高級感ある質感が仕上りを良好に保ちます。

周辺環境にも配慮

臭気が少なく作業環境にもやさしい塗料です。

防カビ・防藻性

湿度の高い屋根の北面などで発生しやすい、カビや藻の発生を抑制し、建物の美観を維持します。

特性と幅広い素材適正

製品名	特性			素材適正			
	性状		臭気	住宅屋根用化粧スレート(新生瓦)	波形スレート	厚形スレート瓦	金属屋根
ラグゼMUKIルーフ	水性	1液	○	○	○	○	—
ラグゼMUKIルーフマイルド	弱溶剤	2液	△	○	○	○	○

※各種素材に対し下塗りが必要となります ※粘土瓦(釉薬瓦、いぶし瓦など)には適用できません。

※洋風コンクリート瓦(モニエル瓦など)の塗装仕様は、「洋風コンクリート瓦塗り替え工法」のカタログをご参照ください。

標準色 (下表の●印が当該製品の標準色になります。)

	ラグゼMUKIルーフ	ラグゼMUKIルーフマイルド		ラグゼMUKIルーフ	ラグゼMUKIルーフマイルド
ガーネットオレンジ	—	●	スチールグレー	●	●
ローヤルレッド	●	●	グリーン	●	●
チョコレート	●	●	アイビーグリーン	—	●
シナモンブラウン	—	●	グラニットグレー	●	●
新ブラウン	●	●	ブルー	—	●
コーヒブラウン	●	●	ナスコン	—	●
セピア	—	●	カーボングレー	●	●
ピスタチオブラウン	—	●	銀黒	—	●
ネオモスグリーン	●	●	ネオブラック	●	●

※ラグゼMUKIルーフは上記標準色のみ対応可能です。ラグゼMUKIルーフマイルドは標準色の他、調色対応が可能です。



ガーネットオレンジ

弱溶剤



ロイヤルレッド

水性

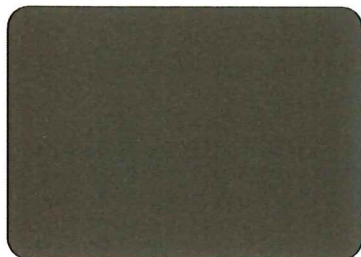
弱溶剤



チョコレート

水性

弱溶剤



シナモンブラウン

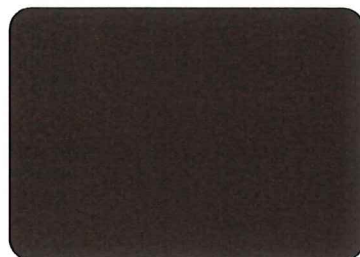
弱溶剤



新ブラウン

水性

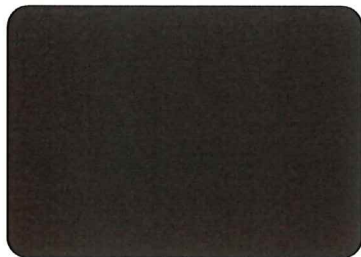
弱溶剤



コーヒーブラウン

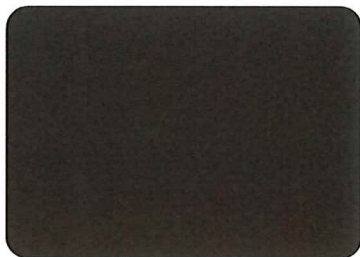
水性

弱溶剤



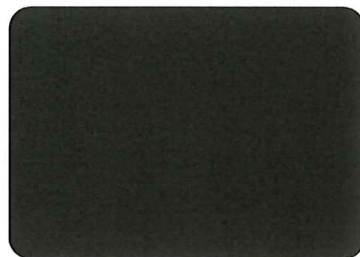
セピア

弱溶剤



ビスタブ라운

弱溶剤



ネオモスグリーン

水性

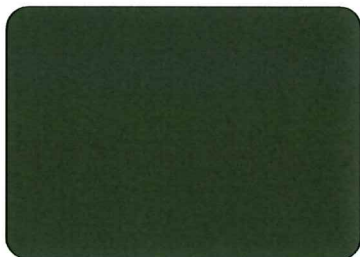
弱溶剤



スチールグレー

水性

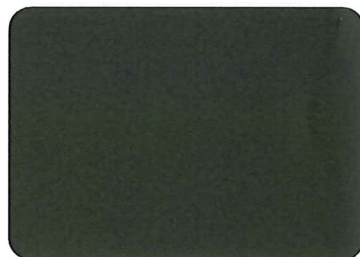
弱溶剤



◎ グリーン

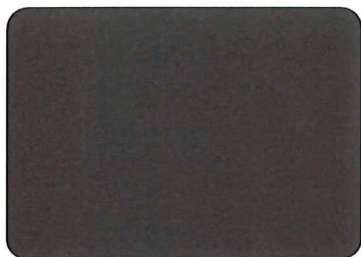
水性

弱溶剤



アイビーグリーン

弱溶剤



グラニットグレー

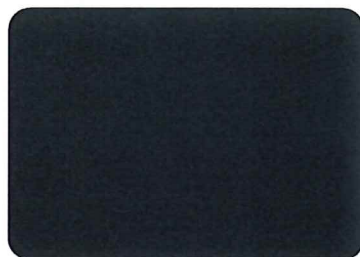
水性

弱溶剤



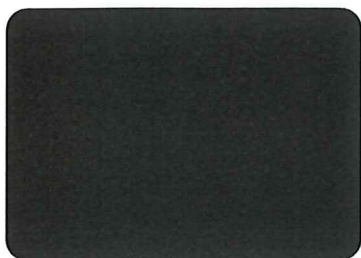
◎ ブルー

弱溶剤



◎ ナスコン

弱溶剤



カーボングレー

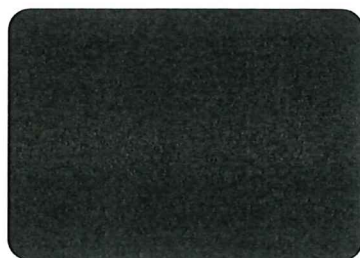
水性

弱溶剤



銀黒

弱溶剤



ネオブラック

水性

弱溶剤

※この見本は印刷のため、実際の色とは異なります。色合わせの目的には使用できません。※「銀黒」は、見る角度によって色が違って見えます。
◎印は、材料費が割高になります。※水性マークはラグゼMUKIルーフの対応色、弱溶剤マークはラグゼMUKIルーフマイルドの対応色です。

窯業系屋根材の適用範囲

下記の表面劣化度に応じた下塗をご使用ください。表面劣化が進行した表面劣化度(大)の場合、下塗に「アレスダイナミックシーラーマイルド透明」または「アレスダイナミックルーフ1液エポシーラー」を推奨します。

表面劣化度(小)

目安 新設後、又は塗替え後10年程度経過した屋根材



塗膜の剥がれ等が部分的に認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(中)

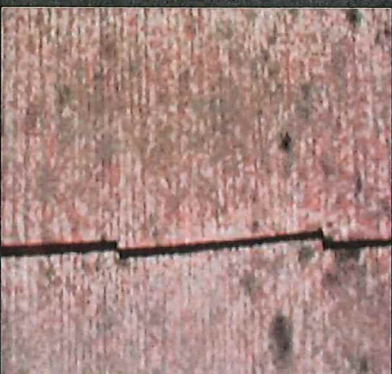
目安 新設後、又は塗替え後10～15年経過した屋根材



塗膜の剥がれは(小)より認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(大)

目安 新設後、又は塗替え後15年以上経過した屋根材



全体に塗膜の剥がれが見られ、下地表層は脆く、吸込みが大きい状態。

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート、厚形スレート瓦

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケ等は高圧水洗浄(10～15MPa)で除去してください。その後、水分がなくなるまで1～2日程度十分に乾燥させてください。						
下 塗	アレスダイナミックシーラーマイルド透明 (表面劣化度(大)までの場合)	ベース:12.5kg 硬化剤:2.5kg	0 (無希釈)	0.12～0.18	1～2※2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
	アレスダイナミックルーフ1液エポシーラー (表面劣化度(大)までの場合)	14kg	0 (無希釈)	0.12～0.18	1～2※2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
	アレスダイナミックシーラーアクア透明 (表面劣化度(中)までの場合)	ベース:12.5kg 硬化剤:2.5kg	0～10 (上水)	0.13～0.20	1～2※2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
	アレスダイナミックルーフ1液カチオンシーラー (表面劣化度(中)までの場合)※3	15kg	0 (上水)	0.13～0.20	1～2※2	2時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKILーフ	15kg	0～10 (上水)	0.15～0.25	2	2時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス
緑 切 り	塗装後、水切り部分で住宅屋根用化粧スレートの重なり部が塗料で詰まった場合には、皮スキ等で必ず緑切りを行ってください。 瓦の上下に隙間がないと通気が不十分になり、結露水などの影響により漏水や素材の腐食。塗膜剥離・膨れなどに繋がる恐れがあります。						

- ※1 標準所要量は被塗物の形状や塗装条件によって増減することがあります。特に劣化したスレート屋根などでは5割以上増加することがあります。
※2 劣化した吸込みの多い素材の場合、表面に艶がでるまで塗り重ねてください。
※3 10年以内の比較的劣化が少ない既存塗膜の場合、アレスダイナミックシーラーアクア透明をご使用ください。

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート、厚形スレート瓦

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケ等は高圧水洗浄(10～15MPa)で除去してください。その後、水分がなくなるまで1～2日程度十分に乾燥させてください。						
下 塗	アレスダイナミックシーラーマイルド透明 (表面劣化度(大)までの場合)	ベース:12.5kg 硬化剤:2.5kg	0 (無希釈)	0.12～0.18	1～2※2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
	アレスダイナミックルーフ1液エポシーラー (表面劣化度(大)までの場合)	14kg	0 (無希釈)	0.12～0.18	1～2※2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKILーフマイルド	ベース:12.9kg 硬化剤:2.1kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.15～0.25	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス
緑 切 り	塗装後、水切り部分で住宅屋根用化粧スレートの重なり部が塗料で詰まった場合には、皮スキ等で必ず緑切りを行ってください。 瓦の上下に隙間がないと通気不十分になり、結露水などの影響により漏水や素材の腐食。塗膜剥離・膨れなどに繋がる恐れがあります。						

- ※1 標準所要量は被塗物の形状や塗装条件によって増減することがあります。特に劣化したスレート屋根などでは5割以上増加することがあります。
※2 劣化した吸込みの多い素材の場合、表面に艶が出るまで塗り重ねてください。

金属屋根

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	電動工具、手工具等で3種クレン程度の処理を行い、さび、ゴミ、汚れなどを入念に除去してください。						
下 塗	アレスダイナミックプライマー	ベース:14.4kg 硬化剤:1.6kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.13～0.18	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKILーフマイルド	ベース:12.9kg 硬化剤:2.1kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.12～0.14	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

上 塗

ラグゼMUKILーフ

15kg

※つや・艶有り

ラグゼMUKILーフマイルド

【15kgセット】

ベース:12.9kg、硬化剤:2.1kg

※ベース:硬化剤=6:1

※つや・艶有り



下 塗

素 材	適 正 下 塗
住宅屋根用化粧スレート	アレスダイナミックシーラーアクア(透明)、アレスダイナミックルーフ1液カチオンシーラー、アレスダイナミックシーラーマイルド(透明)、アレスダイナミックルーフ1液エポシーラー、浸透形Mシーラー
波形スレート	
厚形スレート瓦	
金属屋根	アレスダイナミックプライマー、アレスダイナミック1液プライマー、スーパーザウルスⅡ

【施工上の注意事項】

【共通事項】

- 本注意事項及びご使用になる下塗のカatalogに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、ふくれ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装をさせていただきます。
- 可塑性が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装はさせていただきます。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないてください。(ちぢみ、にじみ、中うみ、割れなど発生する場合があります)
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工はさせていただきます。
- 屋外において降雨、降雪、強風のおそれがある場合は塗装をさせていただきます。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数など)や腐厚によって変わります。
- 施工当日に被塗面に結露の発生が予想される場合は施工は行わないてください。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつやづけなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 気象条件によりますが、塗装作業は、原則として晴天日の午前9時から午後3時までの時間帯を推奨します。
- 秋期のような昼と夜の温度差が激しい時期は、結露によるつやづけ現象が起こりやすいため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅が生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。
- 吸い込みのはげしい新生瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、はがれが生じる部分は塗膜をはく離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- 新生瓦などの窯業系屋根材の重なり部の隙間に塗料が入り込んだままにすると、降雨の排水性が悪くなり、漏水を生じることがあります。そのため、塗装後に屋根材同士が接着した箇所を皮スキ、塗膜カッターで縁切り処理を行ってください。もしくは、塗装前にあらかじめ専用スプレーを挟みこんだ後に塗装を行ってください。
- シーリング面への塗装はさせていただきます。汚染や粘着、割れの原因となります。
- 補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 補修塗りの際は、塗装方法や凹凸肌の違いなどにより、仕上がりに若干の差が生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量などを決定してください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上がりに色相に多少の差が生じます。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜はく離の原因となったり、光沢不足や色むらが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 新生瓦などの窯業系屋根材では、高圧水洗後や、降雨、融雪などで屋根材の内部にしみ込んだ水分が短時間で抜けきらないため、晴天時に2～3日程度乾燥させ、十分乾燥したことを確認した後に塗装を開始してください。乾燥が不十分な状態で塗装すると、塗膜の割れ、ふくれ、はがれなどの不具合が発生することがあります。
- 洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなど確認を行い、補修が必要な場合には適切な処置を行ってください。
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定用刷毛を超えて希釈すると、はじき・光沢低下・色味変化・だれ・腐べい力不足など仕上がりに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 使役前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じることがありますので十分かはんの上で使用ください。
- はけやローラーを共用で使用するとはじきなどが発生する場合がありますので、製品ごとに

専用とするか、十分に洗浄後よく乾燥させた上でご使用ください。

- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分にかはんし、開缶後は速やかに一度に使い切り、使用した塗料を元の塗料容器に戻さないてください。
- 高圧水洗を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。

【ラグゼMUKILーフ、アレスダイナミックルーフ1液カチオンシーラー】

- 結露が発生する場合では、塗料中の微量の水溶性成分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。
- ナイロンはけを使用してください。獣毛はけは固まったりだまになりやすいので使用しないでください。
- 【アレスダイナミックルーフ1液カチオンシーラー】はカチオン性の塗料です。一般的な水性塗料と混合するとゲル化するので、絶対に混合をさせていただきます。はけ・ローラーなどの共用もさせていただきます。
- 【アレスダイナミックルーフ1液カチオンシーラー】をご使用の際には、さび缶などはプラスチック製容器を使用してください。金属製容器はさびが発生するおそれがあります。
- 塗装用具などは、塗料が乾燥しないので固まらないように十分に洗浄してください。水で落ちにくい場合、水性アジャストやラッカーシンナーを用いて洗浄してください。(多孔質ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますので、ご注意ください)

【ラグゼMUKILーフマイルド】

- 塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨などの水分の影響を受けた場合、低汚染性能を損なう場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装をさせていただきます。
- スノードウトのような勾配の殆ど無い屋根の塗り替えは、標準塗装仕様を遵守してください。また没水部への適用はさせていただきます。
- 積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦葺の凸部、はげ部にはこすり付けるように増し塗りを行ってください。
- 補修塗りは7日以内に行ってください。それ以上経過して補修塗りをする場合、被塗面に水を霧吹きで噴霧し、水滴の親水化程度を点検してください。水滴が被塗面になじんでいる場合、周囲は既に親水化が発現しており、主剤/硬化剤比を遵守しても補修部が周囲よりも汚れる場合があります。この場合、区切りの良い面での補修塗りをしてください。
- 補修塗りの際には、硬化剤の入れ忘れに注意し、主剤/硬化剤を正確に計量し配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤不足の場合は汚染むら発生の原因になります。
- 折板屋根などのエッジ部などは、エアレス塗装では逃けなどが発生する場合があるため、はけローラーで先行し増し塗りを行った後、エアレス塗装を実施してください。エアレス塗装を行った後にはけ・ローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なることがあります。
- トタン素地露出部は【アレスダイナミックプライマー】などで先行塗りを行い、所定の塗装仕様で塗装してください。
- 防食性は膜厚に影響を受けます。素材のエッジ部などの薄膜になる形状には、増し塗りするなどして十分な膜厚を確保してください。
- 気温の高い日や被塗物温度が高い場合は【スーパーノンブラ】をご使用ください。
- ほこり、油、樹液などは、塗装前に溶剤拭きや水洗い(温水)などで十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部分はほこりや砂などがたまりやすいので入念に清掃を行ってください。
- 鉄面の素地調整は、塗膜の耐久性に影響を及ぼす要因のひとつですので、さびの著しい部位は入念にさびを除去してください。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上がりに付着性、低汚染性、耐久性などの諸性能に影響しますので正確に計量し配合してください。
- 塗料の希釈に【塗料用シンナーA】以外のシンナーを使用した場合、再溶解やちぢみなどの不具合が生じることがあります。
- 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しているので、一般塗料に比べ塗料表面に特殊顔料が浮きやすい傾向にあります。オートマゼールなどを用いて十分にかはんし、塗料を均一にした後ご使用ください。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開缶後は速やかに使い切ってください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気を行ってください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。

未来を築く次世代の選択

LUXE MUKI

屋根遮熱

弱溶剤形2液超高耐候性無機有機ハイブリッド屋根用高日射反射率塗料

ラグゼMUKIルーフマイルド遮熱

ハイブリッド無機 その選択が 未来を創る。

無機と有機の融合から生まれた次世代塗料、
「ラグゼMUKIシリーズ」。

ハイグレードの耐候性が
建物を長寿命化へと導きます。
塗り替えサイクルを最適にする選択が、
未来の安心を形にします。

無機の力を活かす 無機有機ハイブリッド技術

当社独自の「無機有機ハイブリッド技術」により、『強さ』と『柔軟性』を融合した塗膜が
超高耐候性を発揮。過酷な環境から建物を長期に保護します。

強さの無機

無機成分は、太陽光（紫外線）や酸性雨などにも強く耐久性が高いのが特徴。硬く強い反面、脆さという性質がある。



柔軟性の有機

有機成分は、建物の動きや変形にも対応し、ひび割れや剥がれを防ぐための高い柔軟性が特徴。



Fusing Technology

「無機有機ハイブリッド技術」と「ラジカル制御技術」の融合

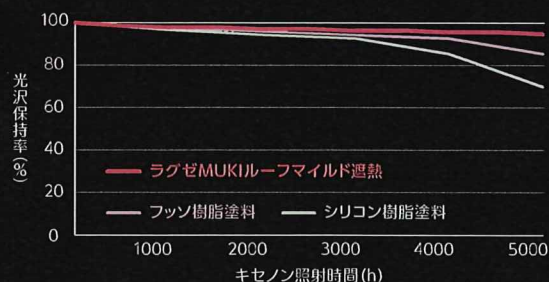
「ラグゼMUKIシリーズ」は、紫外線に強い超高耐候性のハイブリッド無機と、
ラジカル制御技術を融合したハイグレードの塗料です。

塗料のグレード

従来の最高グレード「フッ素樹脂塗料」を超越



促進耐候性試験結果



紫外線劣化に耐えるラジカル制御技術

「ラジカル制御技術」で、劣化の原因物質「ラジカル」の発生を抑制。塗膜の紫外線劣化を抑えます。



Control 1 高性能ハイブリッド無機

超強力な結合エネルギーを持つ「高性能ハイブリッド無機」で紫外線劣化を抑制



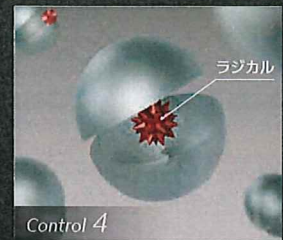
Control 2 UVトラップ

「UVトラップ」で紫外線を吸収し劣化を低減



Control 3 ラジカルバリアコート

酸化チタンへの紫外線到達によるラジカル発生を抑制



Control 4 HALSラジカルキャッチャー

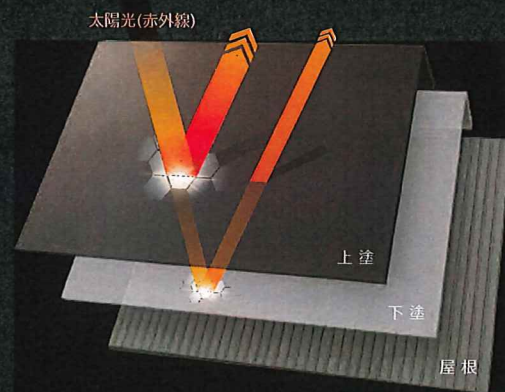
極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し無害化

遮熱機能で夏の暑さ対策

「ラグゼIRブロック技術」の遮熱効果で「赤外線」をブロック。真夏の屋根表面の温度上昇を抑えて住環境を快適にすると同時に、素材の劣化を抑制し屋根を長期保護します。

ラグゼIRブロック技術

赤外線が屋根に当たると表面温度が上昇し、それによって建物内部も暑くなります。「ラグゼIRブロック技術」は、特殊顔料を上塗にも下塗にも配合し、赤外線を反射することで屋根の表面温度の上昇を抑制します。



夏の暑さ対策が必要な屋根に最適な選択を

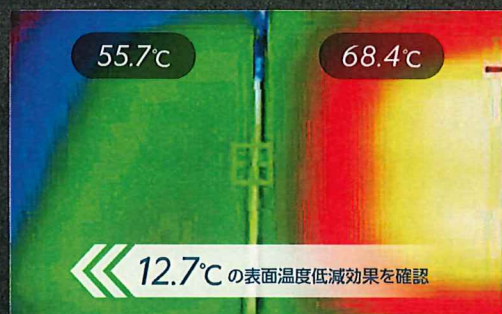
赤外線を反射することで、屋根の表面温度の上昇を抑制するだけでなく、建物内の温度上昇も防ぐことで冷房費の節約などに貢献します。



※SMASHver.2[(財)建築環境・省エネルギー機構]で計算。設定値、屋根素材:銅板0.4mm/合板12mm/通気層30mm/押出法ポリエチレンフォーム3種50mm/合板12mm、屋根面積:150㎡、室内容積:312㎡、床面積:104㎡、冷房稼働時間:8~17時(年中)、室温が25℃を超えた場合にエアコンが稼働すること。(設定温度:25℃、地域:東京) ※色合いはコーヒブラウンを使用。

遮熱性能の効果

屋根の塗替えで人気のコーヒーブラウン色で遮熱性能の効果を確認しました。

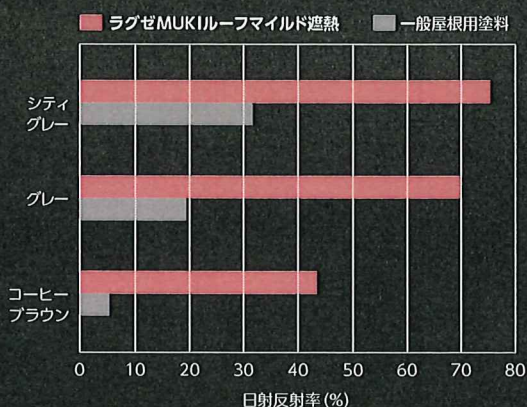


ラグゼMUKIルーフ
マイルド遮熱

一般屋根用塗料

【場所】東京都大田区関西ペイント東京事業所【日時】2023年6月
【気温】29℃ プリキ版に下塗り～上塗り(コーヒーブラウン色)を塗装

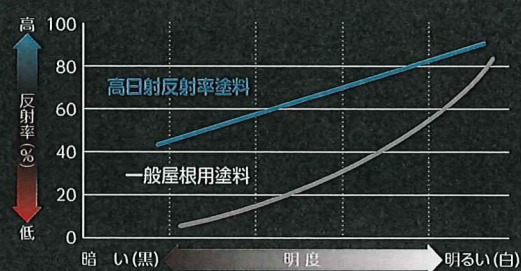
各塗色の日射反射率(近赤外反射率)



大切なのは色と熱の関係

ラグゼMUKIルーフマイルド遮熱は、特殊顔料を使用しているのだので、同じ色同士を比較すれば一般の塗料より効率よく赤外線を反射します。色によって日射反射率は違いがあり、暗く濃い色ほど反射率は低くなり、明るく薄い色ほど日射反射率は高くなります。ラグゼMUKIルーフマイルド遮熱の標準色は、色と日射反射率のバランスを考え、戸建て屋根の塗替えで人気色をセレクトしました。遮熱効果の高さがひと目で分かるように独自のCOOLレベルを表示しています。屋根の色選びにお役立てください。

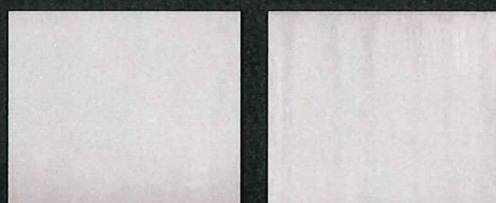
塗膜の明度と日射反射率の関係



超低汚染

親水性の塗膜を形成することで、付着した汚れを雨水が流し落とします。雨だれ等を低減し建物の美観を維持します。

屋外バクロ試験結果(6ヶ月 当社比)



ラグゼMUKIルーフ
マイルド遮熱

従来シリコン樹脂塗料



良好な仕上り

抜群の塗りやすさに加え、肉持ちのあるしっとりとした高級感ある質感が仕上りを良好に保ちます。

周辺環境への配慮

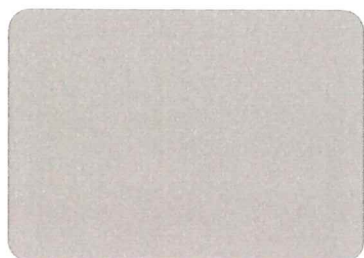
臭気が少なく作業環境にもやさしい塗料です。

優れた耐久性

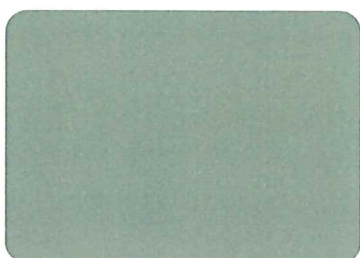
緻密な塗膜が優れた耐久性を発揮します。

防カビ・防藻性

湿度の高い屋根の北面などで発生しやすい、カビや藻の発生を抑制し、建物の美観を維持します。



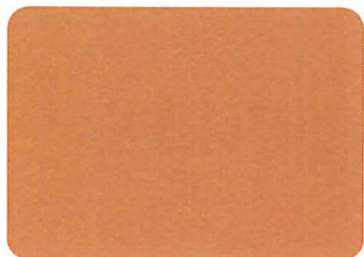
シティグレー ① ② ③ ④



ミストグリーン ① ② ③ ④



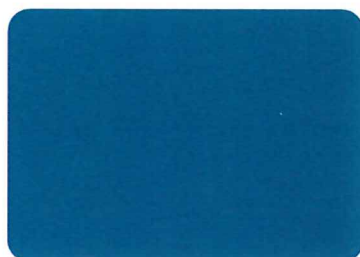
フォグブルー ① ② ③ ④



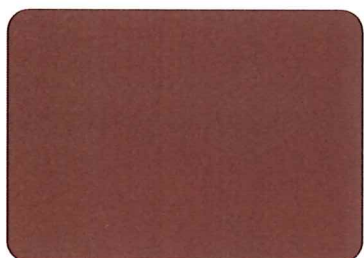
サンタンオレンジ ① ② ③



グレー ① ② ③



新スカイブルー ① ② ③



アンティークブラウン ① ②



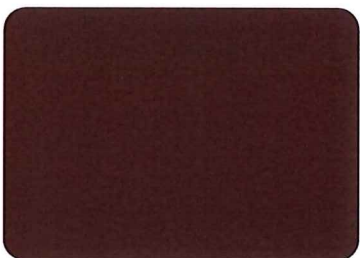
アンバーブラウン ① ②



チョコレート ①



フォレストグリーン ①



コーヒーブラウン ①



◎ ナスコン ①



カーボングレー ①



ジェットブラック ①



ネオブラック ①

COOLレベル 日射反射率 ① ② ③ ④ … 70~80% ① ② ③ … 60~70% ① ② … 50~60% ① … 50%未満

※この見本は印刷のため実際の色とは異なります。色合わせの目的には使用できません。◎印は、材料費が割高になります。
※反射率数値は「JIS K 5602 塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し「アレスダイナミックプライマー 遮熱」で日射反射率(近赤外領域)を実測しています。※日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。

下地適正

窯業系屋根材

住宅屋根用化粧スレート(新生瓦)、波形スレート、厚形スレート瓦、洋風コンクリート瓦(モニエル瓦)など
 ※粘土瓦(釉薬瓦、いぶし瓦など)には適用できません。
 ※洋風コンクリート瓦(モニエル瓦など)の塗装仕様は、「洋風コンクリート瓦塗り替え工法」のカタログをご参照ください。

金属屋根

トタン、ガルバリウム鋼板など

窯業系屋根材の適用範囲

アレスダイナミックプライマー遮熱は表面劣化度(中)までの劣化下地に適用できます。表面劣化が進行した表面劣化度(大)の場合、下塗に「アレスダイナミックシーラーマイルド透明」または「アレスダイナミックルーフ1液エポシーラー」を先行塗りしてください。

表面劣化度(小)

目安 新設後、又は
塗替え後10年程度経過した屋根材



塗膜の剥がれ等が部分的に認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(中)

目安 新設後、又は
塗替え後10～15年経過した屋根材



塗膜の剥がれは(小)より認められるが、下地は健全な状態。

表面劣化度(大)

目安 新設後、又は
塗替え後15年以上経過した屋根材



全体に塗膜の剥がれが見られ、下地表層は脆く、吸込みが大きい状態。

住宅屋根用化粧スレート、波形スレート、厚形スレート瓦

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜や表面の化粧層、砂、ホコリ、汚れ、コケ等は高圧水洗浄(10～15MPa)で除去してください。その後、水分がなくなるまで1～2日程度十分に乾燥させてください。						
下 塗	アレスダイナミックプライマー遮熱	ベース:14.4kg 硬化剤:1.6kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.13～0.23	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKILルーフマイルド遮熱	ベース:13.5kg 硬化剤:1.5kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.15～0.25	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス
緑 切 り	塗装後、水切り部分で住宅屋根用化粧スレートの重なり部が塗料で詰まった場合には、皮スキ等で必ず縁切りを行ってください。瓦の上下に隙間がないと通気が不十分になり、結露水などの影響により漏水や素材の腐食。塗膜剥離・膨れなどに繋がる恐れがあります。						

※1 標準所要量は被塗物の形状や塗装条件によって増減することがあります。特に劣化したスレート屋根などでは5割以上増加することがあります。

金属屋根

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	電動工具、手工具等で3種ケレン程度の処理を行い、さび、ゴミ・汚れなどを入念に除去してください。						
下 塗	アレスダイナミックプライマー遮熱	ベース:14.4kg 硬化剤:1.6kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.13～0.18	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス
上 塗	ラグゼMUKILルーフマイルド遮熱	ベース:13.5kg 硬化剤:1.5kg	0～10 (塗料用シンナーA)	0.12～0.14	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー エアレス

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

上 塗

ラグゼMUKIルーフマイルド遮熱

【15kgセット】

ベース:13.5kg、硬化剤:1.5kg

※ベース:硬化剤=9:1

※つや:艶有り



下 塗

アレスダイナミックプライマー遮熱

【16kgセット】

ベース:14.4kg、硬化剤:1.6kg(ベース:硬化剤=9:1)

※住宅屋根用化粧スレートと

金属屋根の両方に使用できます。

※可使用時間は23℃で8時間以内です。

【施工上の注意事項】

- 本注意事項及びご使用になる下塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の悪い環境では、ふくれ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装をさせていただきます。
- 可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装はさせていただきます。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。(ちぢみ、にじみ、ちうみ、割れなど発生する場合があります)
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工はさせていただきます。
- 屋外において降雨、降雪、強風のおそれがある場合は塗装をさせていただきます。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数など)によって変わります。
- 施工当日に被塗面に結露の発生が予想される場合は施工は行わないでください。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつや引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 気象条件によりますが、塗装作業は、原則として晴天日の午前9時から午後3時までの時間帯を推奨します。
- 秋期のような昼と夜の温度差が激しい時期は、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨などの水分の影響を受けた場合、低汚染性能を損なう場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装をさせていただきます。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅が生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。
- 本品を塗装の際は、中途や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし層間ではく離が生じるおそれがあります。
- 遮熱塗料は遮熱効果を発揮させるため特殊な顔料を使用しています。また、専用下塗色は機能面から白色であるため、上塗の塗付量が少ないと隠ぺい性が不足し、本来の仕上がりや発色性が得られません。塗装の際は透けやかすがないように注意してください。
- 遮熱性能は下塗と上塗の総塗膜により発揮します。下塗は必ず専用のものをご使用ください。
- シーリング面への塗装はさせていただきます。汚染や粘着、割れの原因となります。
- 補修塗りは7日以内に行ってください。それ以上経過して補修塗りをする場合、被塗面に水を霧吹きで噴霧し、水滴の親水化程度を点検してください。水滴が被塗面になじんでいる場合、周囲は既に親水化が顕現しており、主剤/硬化剤比を遵守しても補修部が周囲よりも汚れる場合があります。この場合、区切りの良い面での補修塗りをしてください。
- 補修塗りの際には、硬化剤の入れ忘れに注意し、主剤/硬化剤を正確に計量し配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤過不足の場合は汚染むら発生の原因になります。
- 補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装を行ってください。
- 補修塗りの際は、塗装方法や凹凸肌の違いなどにより、仕上がり性に若干の差が生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量などを決定してください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上がり肌や色相に多少の差が生じます。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜はく離の原因となったり、光沢不足や色むらが発生するなど異常が生じるおそれがあります。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 遮熱塗料は、特殊な顔料を使用しているため、経年による変色色の傾向が一般塗料と異なり、経年で若干ながら茶褐色の色味を帯びることがあります。しかし、遮熱性能や素材の保護性能への大きな影響はありません。
- ガルバニウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べラグゼMUKIルーフマイルド遮熱は遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上がり性、耐熱軟化性、付着性、低汚染性、耐久性などの諸性能に影響しますので正確に計量し配合してください。

- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、はじき・光沢低下・色味変化・だれ・隠ぺい力不足など仕上がり異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じることがありますので十分かはんの上で使用ください。
- 塗料の希釈に[塗料用シンナーA]以外のシンナーを使用した場合、再溶解やちぢみなどの不具合が生じることがあります。
- 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しているため、一般塗料に比べ塗料表面に特殊顔料が浮きやすい傾向にあります。オートマゼールなどを用いて十分にかはんし、塗料を均一にした後ご使用ください。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- はけやローラーを共用で使用するとのはじきなどが発生する場合がありますので、製品ごとに専用とするか、十分に洗浄後よく乾燥させた上でご使用ください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分にかはんし、開缶後は速やかに一度に使い切り、使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結をさせた屋内の冷暗所で保管してください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開缶後は速やかに使い切ってください。
- 高圧水洗を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。

【ガルバリウム鋼板屋根への塗り替え要領】

- ケース1(旧塗膜がある場合):旧塗膜の付着が健全であることを確認の上、目荒らしを行い、標準仕様で塗装してください。
- ケース2(旧塗膜がない場合):ガルバリウム鋼板表面には化学処理などが施されている場合があり、特に新設時には塗料の付着が著しく劣ることがあります。(尚、化学処理は経年で流れ落ちるため、塗装適性は向上します)そのため事前に「アレスダイナミックプライマー遮熱」を塗装し、ガムテープで付着性が良好なことを確認の上、塗装仕様書に基づき施工してください。付着が良くない場合は、使用しないでください。

【住宅屋根用化粧スレート、波形スレートなどの場合】

- 粘土瓦(葺瓦、いぶし瓦など)、洋風瓦には適用できません。
- 吸い込みのはいずい新生瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、はがれが生じる部分は塗膜をはく離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- 新生瓦などの無業系屋根材の重なり部の隙間に塗料が入り込んだままにすると、降雨の排水性が悪くなり、漏水を生じることがあります。そのため、塗装後に屋根材同士が接合した箇所を皮スキ、塗膜カッターで「縁切り」処理を行ってください。もしくは、塗装前にあらかじめ専用スパーサーを挟みこんだ後に塗装を行ってください。
- 新生瓦などの無業系屋根材では、高圧水洗後や、降雨、融雪などで屋根材の内部にしみ込んだ水分が短時間では抜けきらないため、晴天時に2~3日程度乾燥させ、十分乾燥したことを確認した後に塗装を開始してください。乾燥が不十分な状態で塗装すると、塗膜の割れ、ふくれ、はがれなどの不具合が発生することがあります。
- 洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなど確認を行い、補修が必要な場合には適切な処置を行ってください。

【金属屋根面の場合】

- スノードクトのような勾配の殆ど無い屋根の塗り替えは、標準塗装仕様を遵守してください。また波水部への適用はさせていただきます。
- 積雪の荷重を最も受けやすい軒先の部分、瓦棒の凸部、はぜ部にはこすり付けるように増し塗りを行ってください。
- 折板屋根などのエッジ部などは、エアレス塗装では抜けなどが発生する場合があるため、はけローラーで先行し増し塗りを行った後、エアレス塗装を実施してください。エアレス塗装を行った後にはけローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なることがあります。
- トタン素地露出部は「アレスダイナミックプライマー遮熱」で先行塗りを行い、所定の塗装仕様で塗装してください。
- 防食性は腐食に影響を受けます。素材のエッジ部などの薄膜になる形状には、増し塗りするなどして十分な膜厚を確保してください。
- 気温の高い日や被塗物温度が高い場合は「スーパーノンブラ」をご使用ください。
- ほこり、油、樹液などは、塗装前に溶剤拭きや水洗い(温水)などで十分に除去し、乾燥した清潔な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部分はほこりや砂などがたまりやすいので念に清掃を行ってください。清掃を行ってください。
- 鉄面の素地調整は、塗膜の耐久性に影響を及ぼす要因のひとつですので、さびの著しい部位は調整にさびを除去してください。